

2009.3.28.(土)
～6.14.(日)

すべ
て見せま
す

高井田山古墳

休館日
月曜日

開館時間
九時三〇分～一六時三〇分

入館料
無料

交通
通

JR大和路線高井田駅から徒歩五分

近鉄大阪線河内国分駅から徒歩一五分

大阪府柏原市高井田一五九八一一
電話 〇七二一九七六一三四三〇

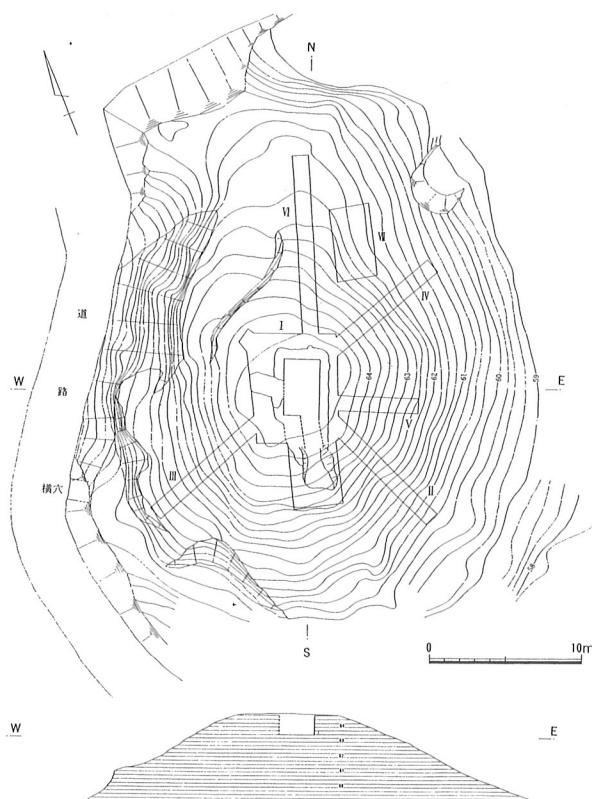
高井田山古墳とは

史跡高井田横穴公園内にある高井田山古墳は、初期の横穴式石室を埋葬施設とする古墳です。この古墳からは、ひのしや鏡など多数の副葬品が、良好な状態で発見されました。そして、これらの副葬品が、平成20年3月に柏原市指定有形文化財第1号に指定されました。そこで今回の企画展では、高井田山古墳からの出土品をできる限り展示し、みなさんに見ていただきたいと考えました。

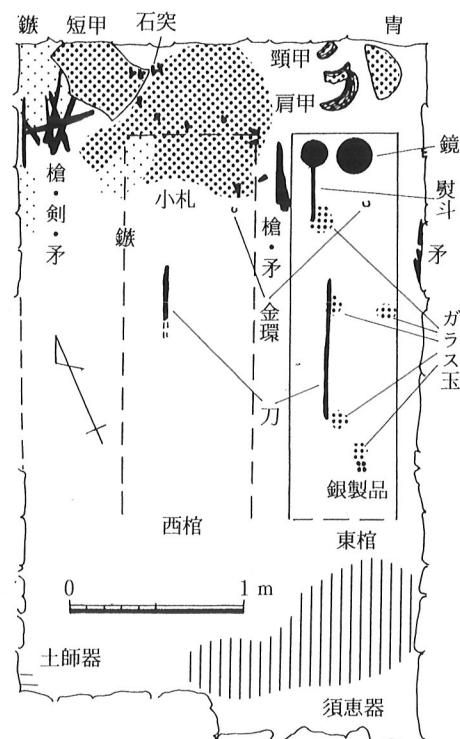
高井田山古墳は直径22mの円墳で、北側に小さな造り出し状の突出部をもつ可能性も考えられます。石室は、板状の安山岩を積み上げて築かれた横穴式石室です。^{あんざんがん}奥からみて左側に入口があり、右側には壁があります。このような石室を右片袖式石室とよびます。玄室は長さ3.73m、幅2.34m、羨道は長さ2.0m、幅1.18mあります。天井は崩れていましたが、周囲の壁が約1mの高さまでまっすぐ立ち上がり、そこから石材を少しずつ持ち送ったドーム状の天井になると推定されます。玄室近くの羨道で、石を丁寧に積み上げて入口が閉じられていました。

これらの特徴から横穴式石室としては初期のものであることがわかります。おそらく、朝鮮半島の百濟の横穴式石室の影響を受けたものと考えられます。そして、その後の近畿地方を中心に行開する畿内型横穴式石室とよばれる石室に継続していくと考えられ、重要な位置を占める石室です。石室は、閉塞せき石を残したままで現地に保存され、見学できるようにしています。

石室内には木棺が2基並んでいたようです。木棺の木材は残っていませんが、板を打ち付けていた釘の出土位置などから、木棺の大きさや構造がわかります。東棺の被葬者は、ひのし、銅鏡、金製耳環、ガラス玉の首飾りと手首・足首の飾り、刀などが副葬されていました。西棺の被葬者には、金製耳環、刀などが副葬されていました。そのほかにも多数の副葬品が出土しています。出土した須恵器の年代などから、高井田山古墳が築かれたのは5世紀後半と考えられます。初期の横穴式石室から豊富な副葬品が出土した古墳として注目されています。



墳丘測量図



副葬品の出土状況

副葬品のいろいろ

東棺内からは神人龍虎画像鏡、ひのし、金製耳環1対、ガラス玉の頸飾り、同じくガラス玉の手首・足首の飾り、体の横から刀などが出土しています。頸飾りのガラス玉のひとつは、金箔を挟んだ金層ガラス玉とよばれる玉です。西棺は盜掘を受けていたこともあり、金製耳環1点と刀1本のみが出土しています。そして、おそらく木棺の上に横矧板鉢留式の短甲、小札を綴じた草摺が置かれていたと考えられます。石室の北東部からは横矧板鉢留式の衝角付冑、頸甲、肩甲など甲冑一式が出土しています。また、石室の北西部を中心に、刀、槍、矛、鐵鎌など多数の鉄製武器が出土しています。石室の南西部には馬具などが副葬されていたようです。そして、石室の南東部、羨道との境界部分に多数の須恵器が置かれていました。

高井田山古墳は、ほとんど盗掘を受けていなかったこともあり、このように多数の副葬品が出土しています。

被葬者はどんな人か？

石室内に安置されていた2基の木棺のうち、東棺はひのしや玉類の出土から女性と考えられます。一方、西棺の被葬者は男性と考えられます。おそらく、この二人は夫婦でしょう。そのころの日本には夫婦を一つの石室に埋葬するという風習はありませんでしたが、中国や朝鮮半島の人たちには、夫婦合葬が広まっていました。

高井田山古墳の石室は百済の影響を受けたものと考えられます。そして、ひのしや金層ガラス玉などは中国から朝鮮半島を経てもたらされたものと考えられます。また、石室内に土器を副葬する行為も朝鮮半島に見られるもので、日本では初期の事例になります。

石室は朝鮮半島から渡ってきた技術者が造ったものでしょう。それだけでなく、夫婦合葬や土器が出土していることを考えると、朝鮮半島の影響を受けた古墳とすませるわけにはいかないようです。朝鮮半島、おそらく百濟からやってきた人たちが、朝鮮半島の方法で石室を築き、埋葬をし、埋葬に伴う儀礼を行なったものと考えられます。つまり、百濟から渡来してきた有力な人物夫婦が高井田山古墳に葬られたのだと考えられます。

この頃、百濟は高句麗に攻められて、苦しい戦いを続けていました。そのような混乱の中、大王雄略に招かれてやってきた高貴な人物だったのでしょう。そして彼らは、ここから北北西 2 km にある柏原市大県・大県南遺跡の鉄製品の生産などに関わる技術者集団を率いて渡來したのではないでしょうか。

主な展示品

東棺出土品

ひのし（熨斗）、神人龍虎画像鏡、金製耳環、ガラス玉（首飾り、手玉、足玉）、鉄刀

西棺出土品

金製耳環、 鐵刀

石室（棺外）出土品

武器（鐵刀・槍・矛・石突、鐵鏃）、武具（橫矧板鎗留衝角付冑・頸甲・肩甲・橫矧板鎗留短甲・小札草摺）、馬具（木心鐵板張輪鐙・鉸具）、農工具（鎌・鋤・刀子）、須恵器（有蓋高坏・無蓋高坏・纓）、土師器（長頸壺・製鹽土器）、鐵釘、鎌

墳丘から転落したと推定される出土品

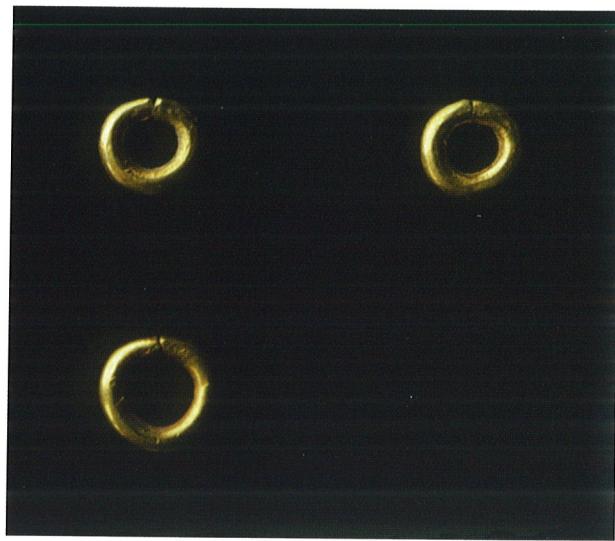
須恵器（壺・脚付壺・器台）、土師器（甕）、埴輪（円筒・朝顔形・蓋形）



ひのし 東棺被葬者の頭部北側から出土。青銅製で、皿の部分に炭を入れてアイロンとして使用したものであるが、実用品かどうかは不明。皿の底が割れ、紐のようなものが残っていた。



神人龍虎画像鏡 東棺被葬者の頭部北側から鏡面を上にして出土。木棺材と布が付着していた。



金製耳環 上の2点は東棺被葬者の耳の部分から、下の1点は西棺被葬者の左耳の部分から出土。純金製。



ガラス玉 東棺のひのしの柄の部分にまとめて置かれていた。玉の数から考えると、二重にして使う首飾りと考えられる。黄色い玉が、二重になったガラス玉の間に金箔を挟んだ金層ガラス玉。その右のガラス玉はもろいものであるが、美しい緑色をしている。そのほかは紺色のガラス玉。手首・足首のガラス玉もこれと変わらない。